

令和5年度

全国学力・学習状況調査

能代市分析結果



能代市教育委員会

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

小学校6年生、中学校3年生

(3) 調査の内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）
 - ・小学校調査：国語、算数
 - ・中学校調査：国語、数学、英語

② 質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

(4) 調査の方式

悉皆調査



(5) 調査期日

令和5年4月18日(火)

(6) 調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	学校数（実施率）	実施児童生徒数
小学校	7校	7校（100%）	269人
中学校	6校	6校（100%）	332人

2. 教科に関する調査結果

< 概要について >

小・中学校とも概ね良好な状況です。

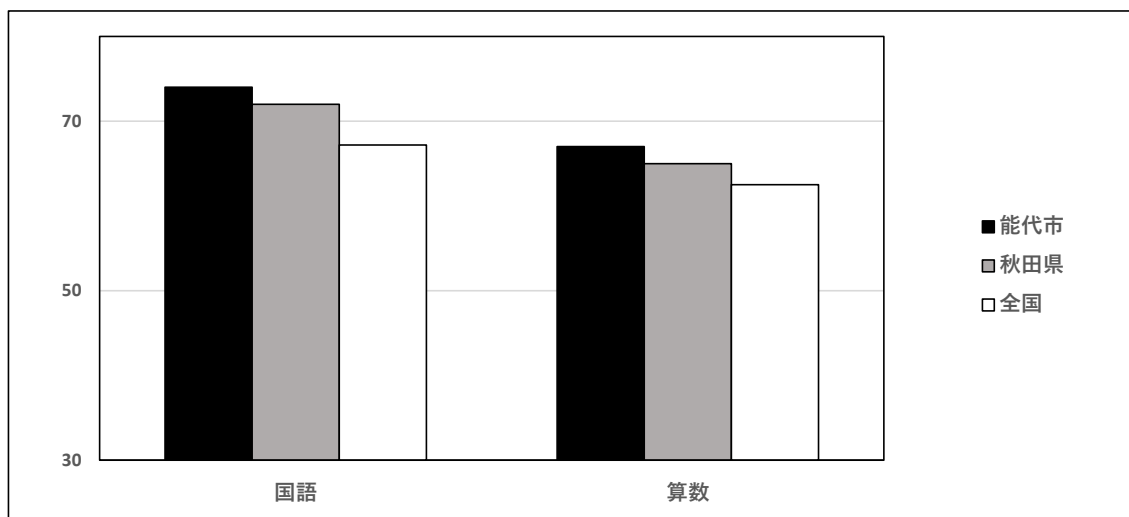
(1) 全国比較について

小・中学校ともに、国語、算数・数学で全国平均を上回っています。中学校の英語で全国平均を下回っています。

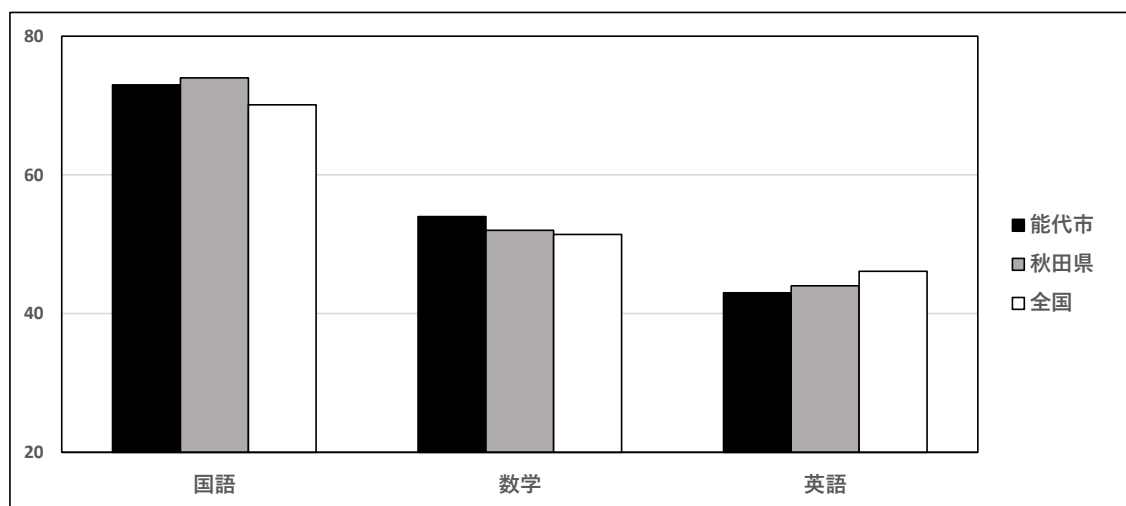
(2) 秋田県比較について

小学校の国語、算数で、中学校の数学で秋田県平均を上回っています。中学校の国語、英語で県平均を下回っています。

(3) 小学校6年生平均正答率(%)

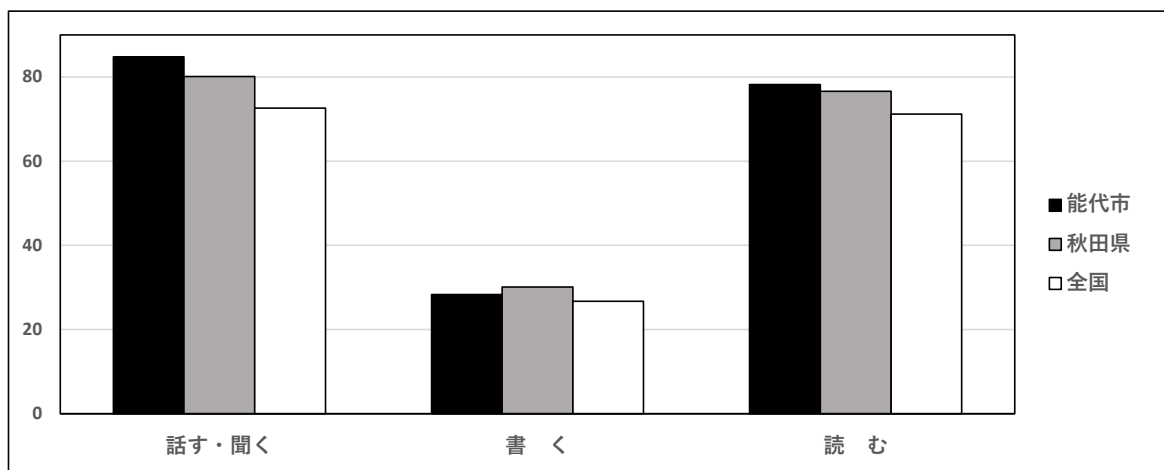


(4) 中学校3年生平均正答率(%)



3. 教科に関する調査結果(小 国語)

< 小学校国語について >



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において概ね良好な状況です。

「話す・聞く」「読む」の領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、11問が全国及び秋田県平均を上回っています。



学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題では、前年同様、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。

【設問1三(1)ア】

更なる向上を目指して

- ・ 図表やグラフ等を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題【設問1二】
- ・ 日常よく使われている敬語に関する問題【設問3三】



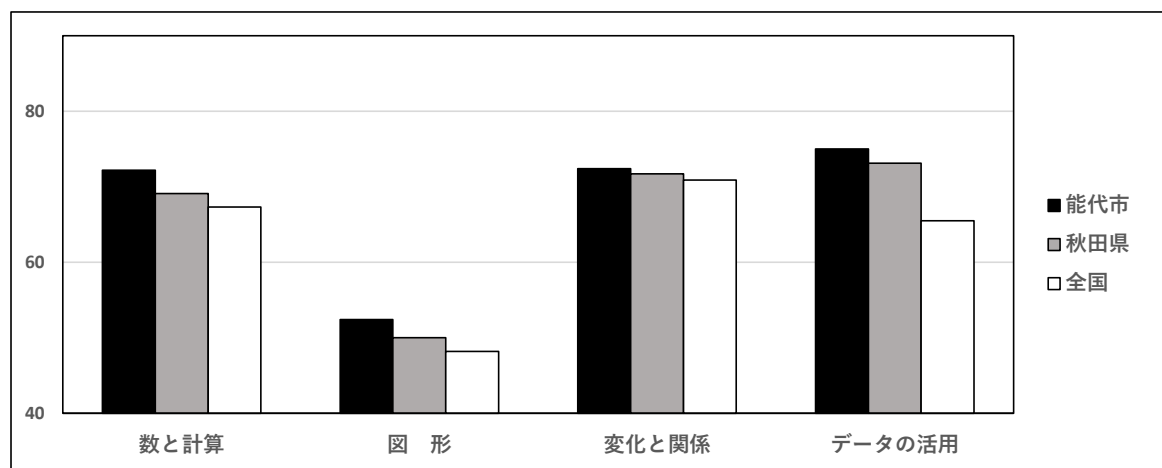
指導のポイント

- ・ 伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフ等を用いるとよいかを考えられるようにすることが大切です。それぞれの図表やグラフの特徴や優れている点等について、他教科と関連して指導することも考えられます。教師が、図表やグラフ等を用いたモデルとなる文章を提示することも考えられます。
- ・ 相手と自分との関係を意識しながら、尊敬語や謙譲語等の敬語について理解することが重要です。学習指導に当たっては、日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにすることが大切です。日常生活の実際の場面を通して、尊敬語と謙譲語について理解できるように指導すると効果的です。

【参考】令和5年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果(小 算数)

< 小学校算数について >



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です。

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全16問中、13問が全国及び秋田県平均を上回っています。



示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題で全国及び秋田県平均を上回りました。

【設問3(2)】

更なる向上を目指して

• 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量を求める問題

【設問1(3)】

• 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係から面積の大きさを判断する問題【設問2(4)】

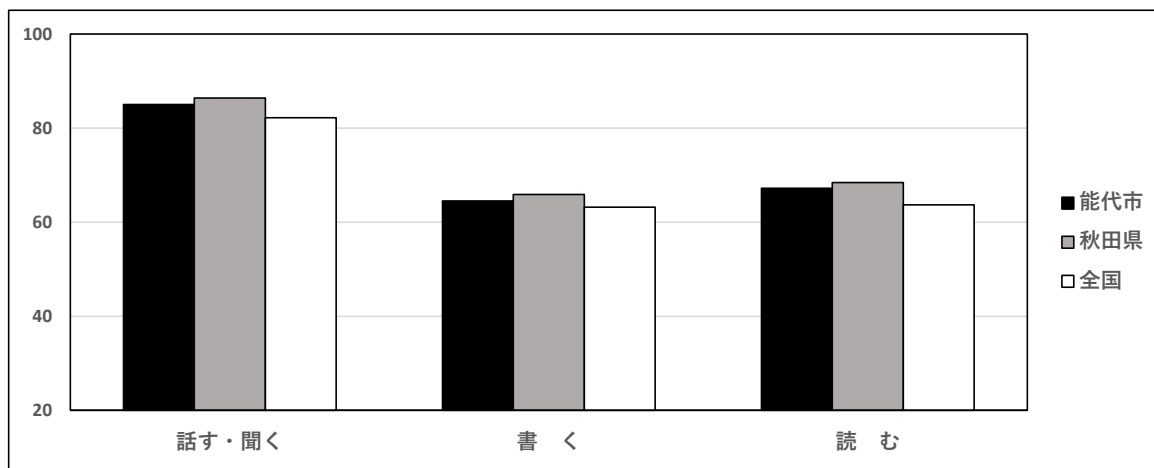


指導のポイント

- 伴って変わる二つの数量の関係が比例の関係かどうかを判断する際には、「一方が2倍、3倍、…になると、他方も2倍、3倍、…になる」と述べるだけでなく、表の具体的な数値を示して、その関係を説明できるようにすることが大切です。その際、表の中の1以外を基準にして、比例かどうかを確かめるよう促したり、比例でない場合も扱ったりして、根拠を明らかにして比例の関係かどうかを説明できるようにすることが大切です。
 - 三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さの関係に着目し、三角形の底辺や高さとの面積の関係を基に面積の大きさを判断できるようにすることが重要です。平行な直線にはさまれた底辺が等しい二つの平行四辺形や二つの三角形の面積を比べる活動が考えられます。
- 【参考】令和5年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果（中 国語）

< 中学校国語について >



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において概ね良好な状況です。

全ての領域で全国平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、6問が全国及び秋田県平均を上回っています。



事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる問題や文脈に即して漢字を正しく書く問題で全国及び秋田県平均を上回りました。【設問2一、3二】

更なる向上を目指して

- 意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題 【設問1二】
- 読み手の立場に立って叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題 【設問3一】

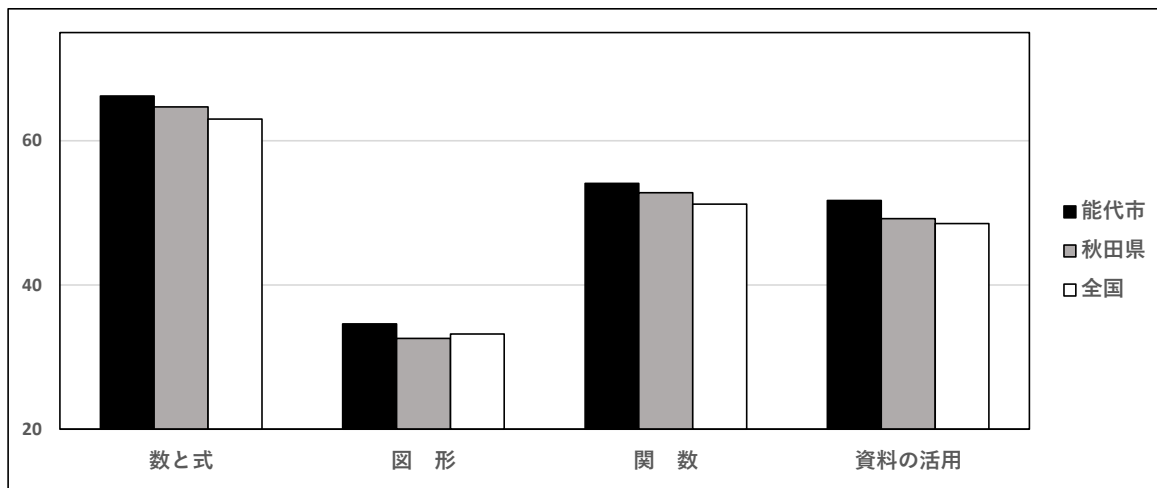


指導のポイント

- 相手の意見を理解したり自分の意見を述べたりするためには、原因と結果、意見と根拠等、話や文章の中に含まれている情報と情報との関係について理解することが重要です。そのためには、考えとともに考えの拠り所となる事例が示されているかを確かめるなど、話や文章の中に示されている考えと、それを支える根拠との関係を明らかにすることができるように指導することが大切です。
 - 書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方等を確認して、文章を整えることができるように指導することが大切です。
- 【参考】令和5年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果（中 数学）

< 中学校数学について >



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です。

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全15問中、11問が全国及び秋田県平均を上回っています。



目的に応じて式を変形したりその意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題で全国及び秋田県平均を大きく上回りました。

【設問6(2)】

更なる向上を目指して

- 自然数の意味を理解しているかどうかをみる問題 【設問1】
- 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題【設問8(2)】



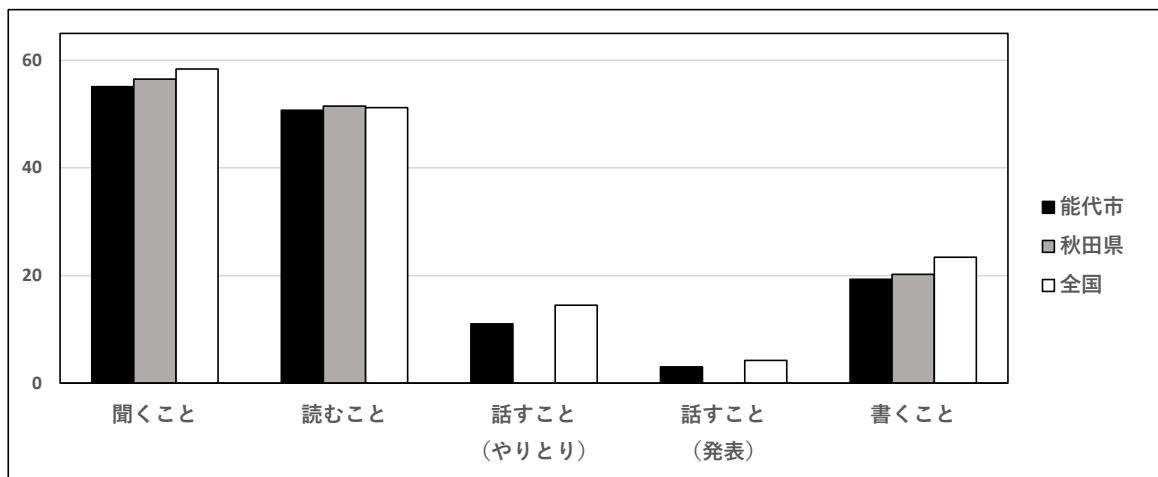
指導のポイント

- 数の範囲を正の数と負の数にまで拡張して、数の集合を捉え直す場面を設定し、自然数や整数の意味を理解できるようにすることが大切です。新しく捉え直した数の集合の定義に基づいて、様々な数の中から、自然数や整数を判断する活動を取り入れることが考えられます。
- 具体的な場面において、事象を理想化したり単純化したりして、日常生活や社会の事象における問題を数学の問題として捉え、数学を活用して解決できるように指導することが大切です。

【参考】令和5年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果（中 英語）

< 中学校英語について >



※「話すこと」の秋田県データは公表されていません。

(1) 領域別平均正答率の結果について

複数の領域において課題が見られました。

複数の領域で全国平均、秋田県平均を下回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全22問中、6問が全国平均を上回っています。



情報を正確に読み取ることができかどうかをみる問題、疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる問題で全国及び秋田県平均を上回りました。【設問5(1)、9(1)②】

更なる向上を目指して

- 疑問詞の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる問題 【設問1(3)】
- 社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる問題 【設問8(1)】



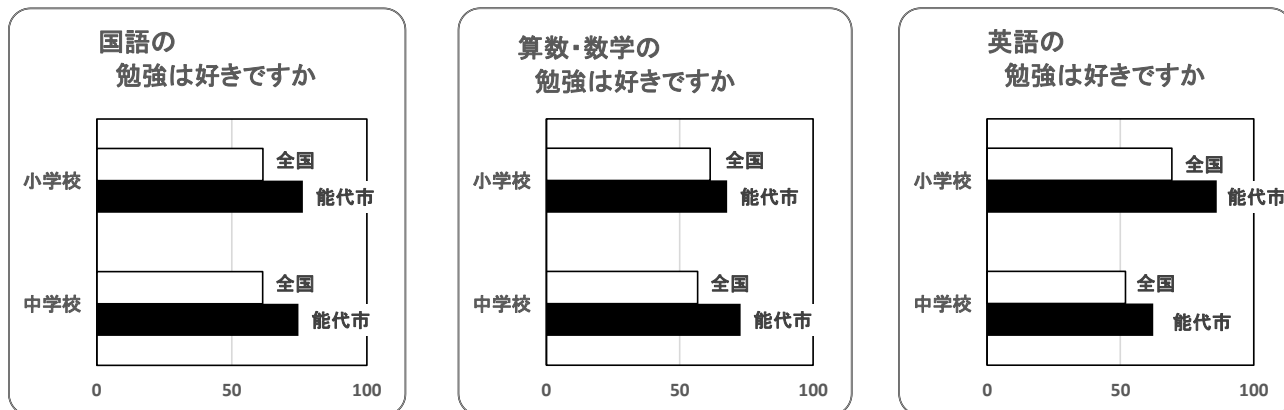
指導のポイント

- 言語活動を行うに当たっては、「Yes-No」疑問文や「or」を含む選択疑問文、Wh-疑問文等について、語順、動詞の形の変化、イントネーション等を意識するよう指導者が声かけをすることが大切です。また、疑問文を実際のコミュニケーションにおいて正しく活用できるまでには時間を要するため、疑問文を用いて話したり書いたりすることを、3年間を通じて継続的に行うことも大切です。
- 意見文を読んで、要点を捉えるためには、文章全体を通して読み、複数の情報から書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉えることが重要です。【参考】令和5年度全国学力・学習状況調査報告書

4. 質問紙調査結果① (授業づくり)

(1) 国語、算数・数学、英語 に対する関心・意欲・態度

各教科に対する関心や意欲が高い児童生徒の割合が全国平均と比べて高い。

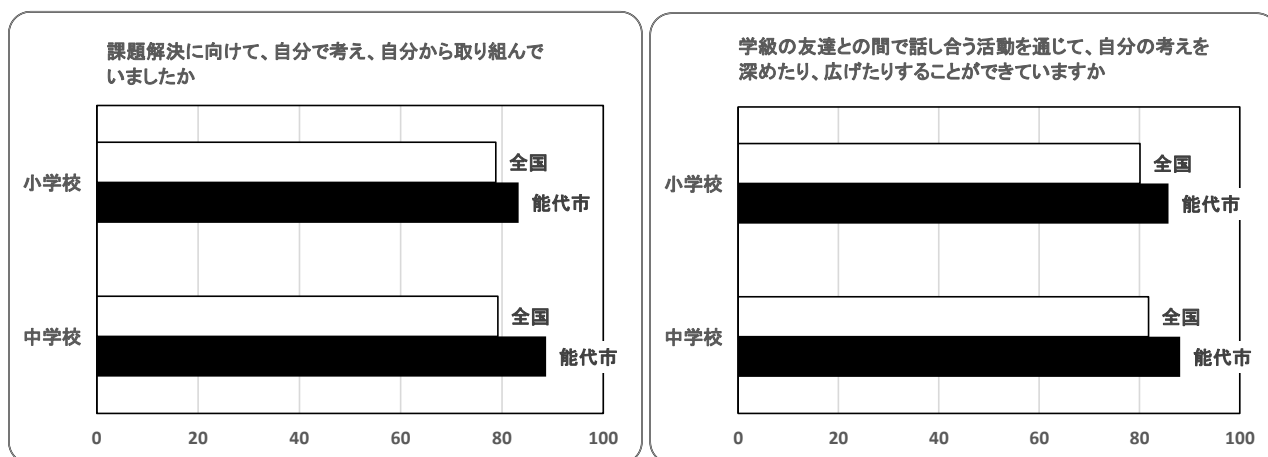


「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

小学校の国語、算数、英語、中学校の国語、数学、英語ともに、全国平均を上回っています。また、「授業の内容はよく分かりますか」についても、それぞれの教科で全国平均を上回っています。

(2) 授業の中での児童生徒の意識

- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合が全国平均を上回っている。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている児童生徒の割合が全国平均より高い。



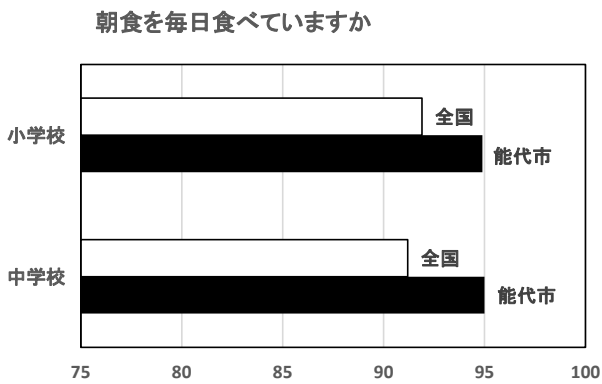
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

小・中学校ともに、全国平均を上回っています。各教科において秋田の探究型授業が定着し、主体的・対話的で深い学びが展開されていることがうかがえます。

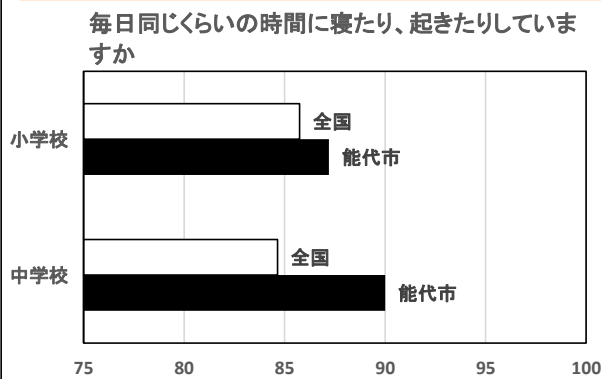
4. 質問紙調査結果② (家庭の教育等)

(1) 家庭生活(朝食・生活リズム)

朝食を毎日食べている児童生徒の割合が全国平均を上回っている。



毎日同じくらいの時間に寝たり、起きたりしている児童生徒の割合が全国平均を上回っている。



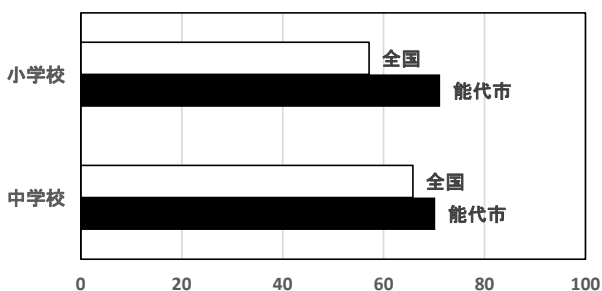
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合(%)

気持ちよく学校生活を送るためには、十分な睡眠と朝食によるエネルギーが必要になります。決まった時間に寝たり、起きたりすることやしっかり朝食を摂ることの重要性を家庭にも呼び掛けながら継続的に指導していくことが大切です。

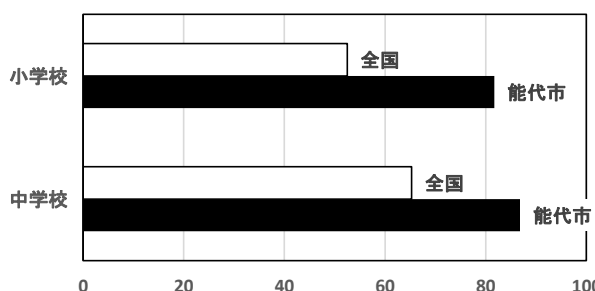
(2) 家庭での学習時間

- ・ 平日1時間以上勉強する児童生徒の割合は全国平均より高い。
- ・ 休日1時間以上勉強する児童生徒の割合は全国平均より高い。
- ・ 中学生は平日よりも休日に1時間以上勉強する割合が高い。

学校がある日(平日)、1日1時間以上、勉強をしますか



学校がない日(休日)、1日1時間以上勉強をしますか



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合(%)

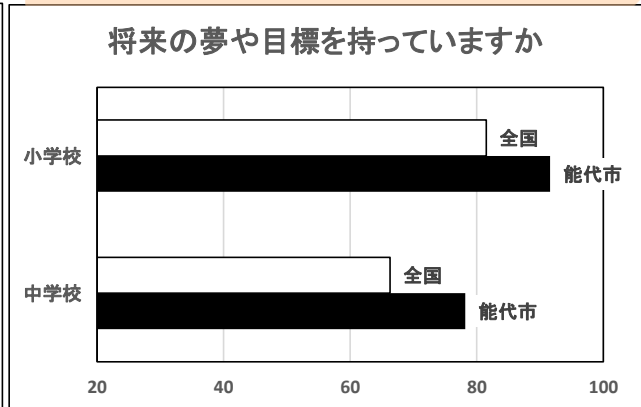
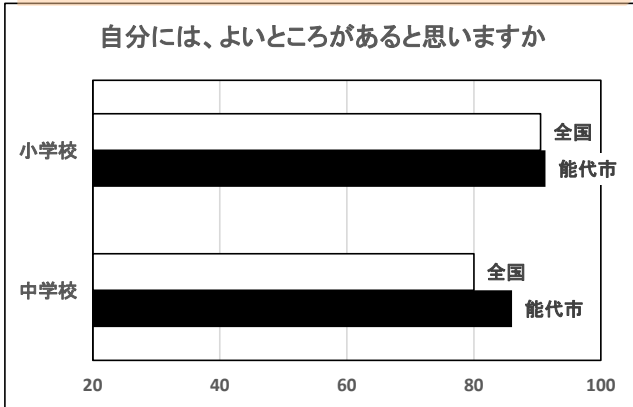
家庭学習の定着に向けて、各校で工夫した取組が行われています。A I ドリルやタブレットを活用した家庭学習に取り組んでいる学校も見られます。今後も家庭と連携しながら、継続的に指導することが大切です。

4. 質問紙調査結果③ (ふるさと・キャリア)

(1) 自己肯定感、キャリア形成

自分にはよいところがあると思っている児童生徒が9割近くいる。

将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は全国平均より高い。



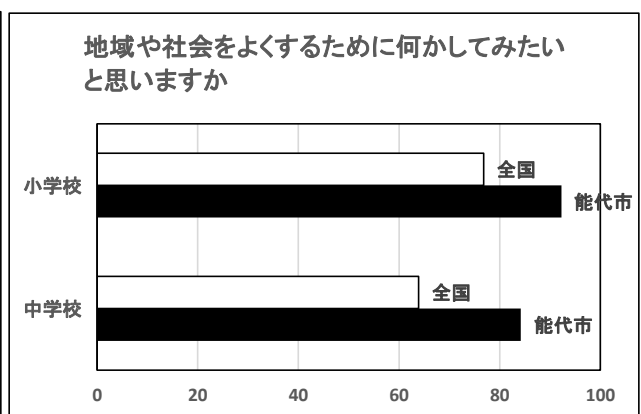
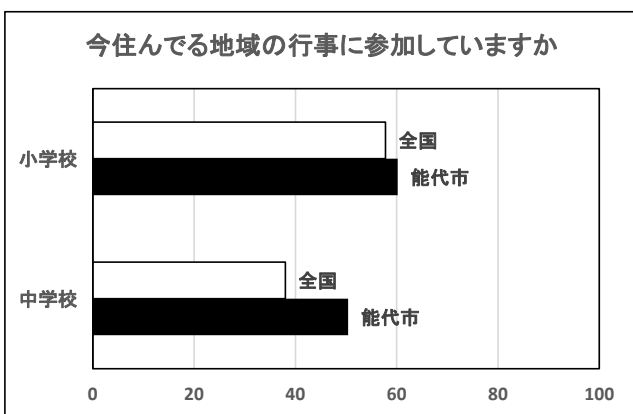
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合(%)

授業や学校行事等で、児童生徒一人一人が活躍できる場や他者から褒められたり認められたりする場を意図的に設定し、自己肯定感の醸成やキャリア教育の充実に努めていくことが大切です。

(2) 地域との関わり、地域貢献

地域の行事等に参加している児童生徒の割合は全国平均より高い。

地域をよくするために何かしてみたいと思っている児童生徒の割合が全国平均より高い。



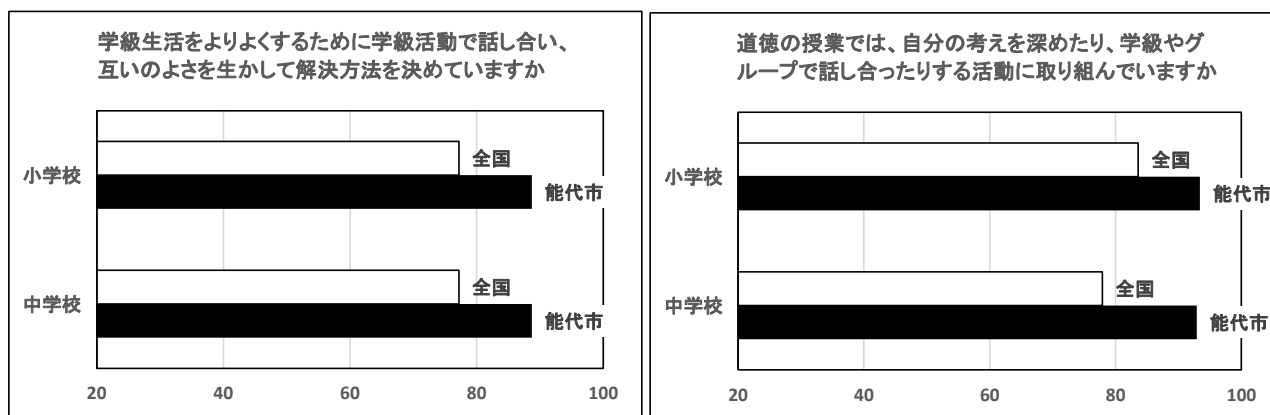
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合(%)

小・中学校ともに、全国平均を上回っています。地域の方に協力していただきながらの学習活動が多く取り入れられ、地域理解や地域について考える機会となっています。学習を通して地域や社会に関わろうとする意欲の高まりが感じられます。

4. 質問紙調査結果④ (話し合い・ICT)

(1) 話し合い活動

学級生活をよくするための話し合いや、考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる児童生徒の割合が全国平均に比べ高い。



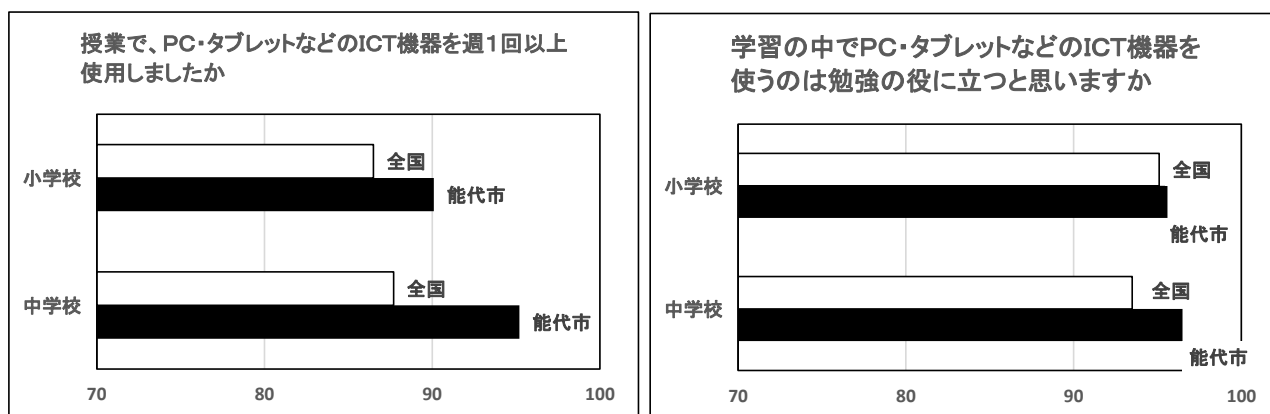
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合(%)

各教科同様、特別活動や道徳等でも、互いの意見のよさを認め合いながら話し合う活動が取り入れられています。自分の意見や考えを押し通すのではなく、折り合いを付けながらの話し合い活動が進められています。

(2) 授業におけるICTの活用

「学習の見通しをもつ」「自分の考えをもつ」「集団で話し合う」「学習内容や方法を振り返る」の各場面でICT機器の積極的な活用が図られている。

ICTの活用が勉強に役立つと考えている児童生徒が多い。



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合(%)

タブレット型端末の本格的運用3年目となり、各校で効果的な活用が図られるようになってきています。今後も秋田の探究型授業にICTをうまく機能させながら児童生徒の学びを深めていくことが必要です。